

中高連携を重視した情報科に関わる学習指導案作成の学修支援

阿濱 茂樹

山口大学教育学部

ahama@yamaguchi-u.ac.jp

藤本 直樹

福岡県立西田川高等学校

fujimoto-n@fku.ed.jp

中学校と高等学校の情報教育に関する学習内容の連携に着目して、中学校技術・家庭科の教員養成課程における科目である技術科教育法で、「高等学校情報科」の学習内容の概要を説明したうえで、学習内容の連続性を重視した学習指導案作成の演習を行った。さらに、連携の効果を高めるために、情報科担当教員による指導を行うことを通してフィードバックを試みた。

1. はじめに

高等学校における情報科の学習内容は、小中学校における ICT 活用教育など情報教育の学習内容を踏まえつつ、より高度な学習指導を行うことが求められている。特に中学校技術・家庭科（技術分野）など情報に関わる技術を学習する教科などとの連携は今後の情報科の学習指導を検討する上では欠かすことができないことであると考えられる。

そこで、本研究では、教科指導の中で中高連携を重視した学習指導案の作成を行う能力の習得を目的に、情報科教育に関わる学習指導を行うことを目的にした指導案作成演習を技術科の教員養成課程における科目の中で実施した。

れる。これまでに、筆者らは同じ教科の中で、指導力向上を目的に、教職科目の中で実地指導講師による指導に加え、指導案の添削など学習指導の実際に即した教育実践を試みてきた。

そこで、本研究では情報科担当教員による指導を行うことを通してフィードバックを試みた。本研究における学習指導のモデルを図1に示す。

実際には、技術科教育法を履修した学習者は、情報科との連続性を意識した学習指導案を課題として考案し、LMS に提出し、提出された指導案の構成などを大学教員が評価し、指導する学習内容の細部については、情報科を担当する教師が評価を行い学習者にフィードバックする実践をおこなった。

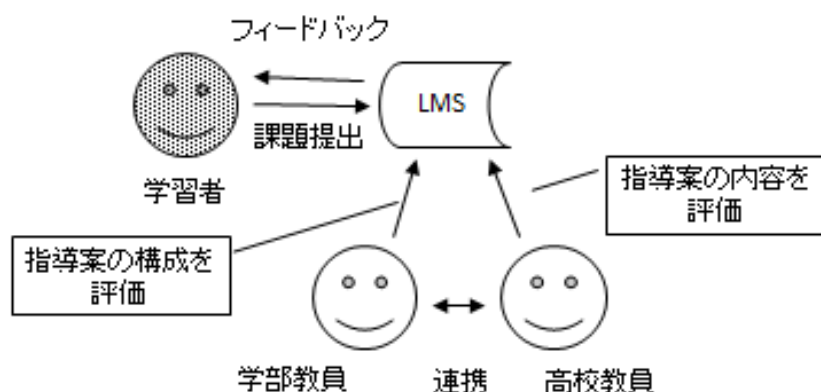
2. 中高連携を重視した教育実践

本研究における教育実践は平成27年5月に技術科教育法の授業の中で、「高等学校情報科」の学習内容の概要を説明し、学習内容の連続性を重視した学習指導案作成の演習を行った。

従来型の学習では、指導案の作成方法を講義形式で学んだ後に、実際に指導案を作成し、科目担当者の評価および指導を受けることを繰り返し、指導案の完成に至る流れが一般的であると考えら

参考文献

- 1) 文部科学省：中学校学習指導要領，(2008)．
- 2) 文部科学省：高等学校学習指導要領，(2009)．
- 3) 平田 直樹，阿濱 茂樹，澤本 章：中学校技術・家庭科の学習指導場面で効果的に ICT を活用するための実証研究，学部・附属教育実践研究紀要（山口大学教育学部），14 巻，pp.51～56(2015)．



図学習指導のモデル